

# 2024年度環境経営レポート

対象期間：2024年4月～2025年3月



株式会社菜の花エッグ

人の愛情を受け、丁寧に育った鶏のたまごで世の中に笑顔と  
幸せを運びたい。

そんな思いを込めて菜の花エッグは商品づくりを行っています。

作成日 2025年5月16日

更新日 2025年6月20日



# 目次

01 ごあいさつ	P 3
02 環境経営方針・行動指針	P 4
03 経営理念・事業定義	P 5
04 事業所概要	P 6
05 登録・認証の対象組織・活動	P 7
06 環境管理体制と役割	P 8
07 主な負荷の実績	P 9
08 環境活動の取り組み結果と次年度の取り組み内 容	P10
09 環境目標	P11
10 CO2排出量の推移と2050年度目標	P12
11 環境関連法規等の遵守状況	P13
12 代表者の全体の評価と見直し・指示	P14
13 ちばSDGsパートナー登録制度	P15
14 菜の花エッグのCSR活動	P16



# 01ごあいさつ

株式会社菜の花エッグは、千葉県に根ざした卵の生産・販売を行う企業として、「安全・安心でおいしい卵」をお届けすることを使命としながら、地域社会や環境との共生を大切にしてまいりました。

近年、地球温暖化や資源の枯渇といった環境課題が深刻さを増す中で、企業にも持続可能な社会の実現に向けた責任ある行動が求められています。こうした社会的要請に応えるべく、当社はエコアクション21の認証を2023年に取得し、環境経営に本格的に取り組んでまいりました。

報告年度にあたる2024年度には、全国的に高病原性鳥インフルエンザが発生し、養鶏業全体に大きな影響を及ぼしました。私たちの業界にとって極めて厳しい状況ではありましたが、衛生管理体制の徹底や関係機関との連携により、地域の食の安定供給と環境負荷の低減を両立する努力を続けてまいりました。また、鶏卵の品質を向上させるためにHACCP認証取得に向け現在、取り組んでおります。

本レポートでは、2024年4月から2025年3月までの1年間における環境活動の取り組み状況と成果をご報告いたします。電力使用量や廃棄物の削減、再資源化の推進をはじめ、社内の意識啓発や地域との連携にも注力し、持続可能な卵づくりと経営の実現をめざしています。今後も環境負荷の低減に向けた継続的な改善を図り、地域にとって最も身近で信頼される卵屋さんとして、環境と未来にやさしい企業を目指してまいります。

2025年5月16日

株式会社菜の花エッグ  
代表取締役 梅原 正一



## 02環境経営方針・行動方針

### 「環境への経営方針」

私たちは、鶏卵生産者として、地球環境問題に多方面からアプローチし、持続可能な社会実現のため積極的に全社で環境経営システムの継続的改善に取組みます。

### 「環境保全への行動指針」

1. 事業に関わる環境関連法規制を遵守し、社会的責任を果たします。
2. 電力・燃料による二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
3. 太陽光発電により電力の削減に取り組みます。
4. 鶏糞の堆肥化及び廃棄物の削減により適正処理を推進します。
5. 節水行動や作業改善で水使用量を削減します。
6. 最新養鶏栄養学を利用し飼料効率を上げ、飼料用米・未利用資源の利用を増やします。
7. 地域の環境活動（環境美化活動）に積極的に参加します。

この環境方針を全従業員に周知し、教育啓発活動を実践していきます。

制定日 2023年1月5

日

株式会社 菜の花エッグ  
代表取締役 梅原 正一



写真:久留里の生きた水

## 03 経営理念・事業定義

### 経営理念

- 私たちは、鶏卵生産者として、日本の食生活に果たす大切さを認識し、高品質で安全性を追及した生産を行い、食卓に安心できる「美味しさ」と「健康」を届けします。(科学性)
- 私たちは、千産千消に取り組み、人と人との繋がりを大切にし、協力し合い、地域社会の環境保全・食文化・食育に貢献できる人間集団を目指します。(社会性)
- 私たちは、人間として能力・可能性を高めるため、コミュニケーションを実現の場とし、共に成長し続けます。(人間性)

### 事業定義

「食・生活応援業」

私たちは鶏卵を生産し、「美味しさ」「健康」をたまごを通して日本国民に提供することで食と生活を豊かにすることをあらゆる方面から応援する事業とします。そして、「私たちは最も地球にやさしく生活に美味しさと楽しさを提供する」会社を目指します。



# 04 事業所概要

## ■ 名称及び代表者

株式会社菜の花エッグ 代表取締役 梅原正一

## ■ 所在地

本社・工場 〒292-0501 千葉県君津市山滝野1121

## ■ 環境責任者氏名及び担当連絡先

・環境管理責任者	小野雄生	・連絡先
・担当者(GPセンター)	岡村裕樹	TEL 0439-29-2880
・担当者(農場)	積田 優海	FAX 0439-29-2780
・担当者(農場)	鈴木博則	E-mail office@nanohana-egg.co.jp

## ■ 事業内容

採卵養鶏業、鶏卵の生産・加工販売、液卵の加工販売、飼料の販売、肥料の販売

## ■ 事業規

法人設立日 1991年4月1日

資本金 2000万円

売上高 116,914万円(2025年3月末)

従業員数 34名 内GPセンター 20名  
内農場 7名  
内配送 3名  
内直売所 4名

規模 本社・工場 783.51m<sup>2</sup>  
鶏舎4棟 500m<sup>2</sup>×4棟  
採卵鶏 90,000羽

鶏卵生産量 1,536t(2024年4月～2025年3月)

## ■ 食品営業許可証

飲食店営業 第2021-62号

菓子製造業 第2021-8号

液卵製造業 第2023-1号



## 05 登録・認証の対象組織・活動

■ 登録組織名 株式会社菜の花エッグ  
本社 千葉県君津市山滝野1121

■ 事業活動 採卵養鶏業  
鶏卵の生産・加工販売  
液卵の加工販売  
飼料の販売  
肥料の販売

■ 対象事業所 本社・工場

■ 環境経営レポート対象期間  
2024年4月1日～2025年3月31日

■ 環境レポート発行日  
2025年5月16日



鶏舎内部の風景



鶏糞処理施設

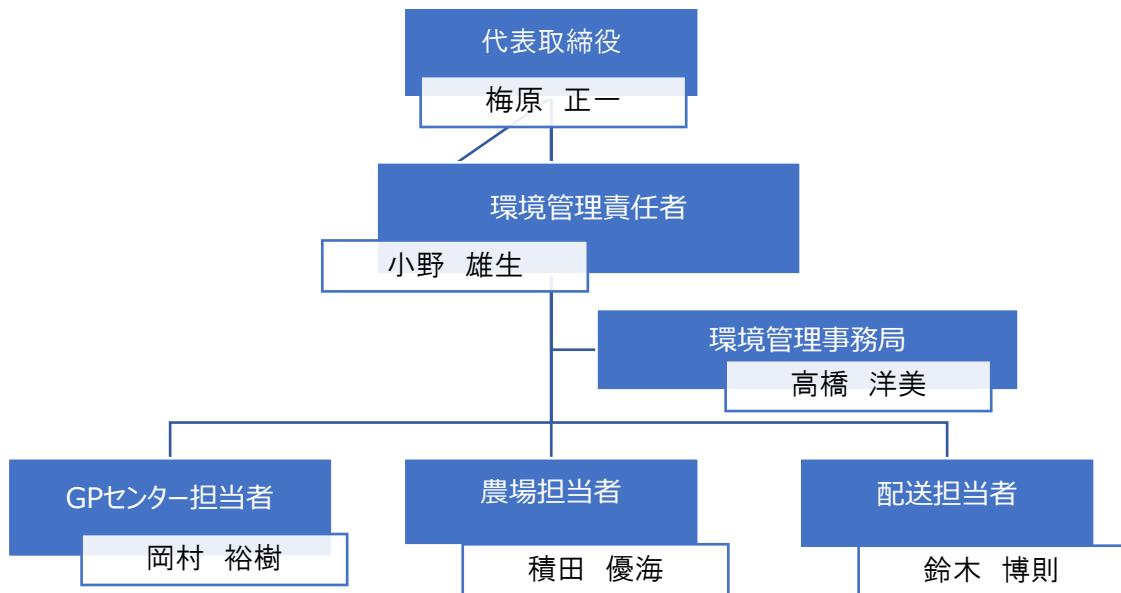


鶏卵洗卵選別施設



直売所の加工風景

# 06 環境管理体制と役割



	役割・責任・権限
代表取締役	a. 環境経営に関する統括責任 b. 環境経営の実施及び管理に必要環境資源(人、設備、資金の準備) c. 環境経責任者の任命 d. 環境営方針、目標の策定・制定見直し及び全従業員への周知 e. 代表者による全体の評価と見直し・指示の実施 f. 環境経営レポート、環境関連法規等まとめ表承認
環境管理責任者	a. 環境経営システムの構築し、実施・管理 b. 環境関連法規等のとりまとめ表の承認 c. 環境目標設定の承認と環境活動計画書の承認 d. 環境活動の取組結果の代表者への報告 e. 環境経営レポートの確認及び地域事務局への送付 f. 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
各部門長	a. 自部門に関連する環境経営システムの実施 b. 自部門に関連する従業員への環境方針、環境目標、環境目標値、環境活動計画の周知 c. 自部門への関連する従業員に対する教育訓練の実施 d. 自部門への関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 e. 自部門への関連する必要な手順書の作成及び運用管理 f. 自部門への関連する緊急事態への対応手順書作成、施行・訓練・記録 g. 自部門への関連する問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	a. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
環境管理事務局	a. エコアクション21推進事務局 b. 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 c. 環境関連法規等のとりまとめ表/遵守評価記録の作成 d. 環境目標・環境活動計画書原案の作成 e. 環境活動計画の実績集計及び環境経営レポート原案の作成
各担当者	a. 自部門の環境負荷の把握と対応

# 07 主な環境負荷の実績

## 環境経営への取組の全体概要

二酸化炭素排出量	化石燃料由来(特に軽油の使用量増加)のCO <sub>2</sub> 排出量が増加したが、2024年5月より、太陽光発電を増設し電気使用量が削減したため、全体目標は達成できた。
運搬車輛の軽油使用量	スーパー小売店向けの配送が減少し、大型配送車を1台2024年10月購入し、遠方配送ルートが増えたため未達成に終わった。
電力使用量	2024年5月末に太陽光パネル(19.5kWh)を増設により自家消費分が増加したため電力使用量が減少したため、目標を達成できた。
廃棄物排出量	工場由来の廃棄物分別の結果、大幅に減少し達成できた。
水使用量	GPセンター内のボイラー更新に伴い、洗卵時の使用水を2024年5月に地下水から市水に変更したため、使用量が大幅に増加した。今後は目標数値を見直す必要がある。
A-PETパックの使用量	9月以降にA-PET商品(スーパー向け)の商品が減少し、使用量が減少し、達成した。
環境美化活動	会社周辺の清掃や草刈り、掃活動、地域の一斉清掃への協力も積極的に行い、社会貢献活動実施した。

項目	単位	2024年度目標	2024年度実績	達成状況	評価
二酸化炭素の排出量	Kg-CO <sub>2</sub>	386,043	383,636	99.4% 0.6%減	○
運搬車輛の軽油使用量	ℓ	45,184	46,450	102.8% 2.8%増	×
電力使用量	KWh	523,847	504,513	96.3% 3.7%減	○
廃棄物	産業廃棄物(鶏糞)	t	鶏糞全量堆肥化	鶏糞全量堆肥化	達成
	産業廃棄物(工場)	kg	4,080	828	20.3% 79.7%減
水使用量	m <sup>3</sup>	613以下	1,727	281.7% 181.7%増	×
A-PET使用量	t	26.07	24.68	94.7% 5.3%減	○
地域の環境美化活動		実施	実施	達成	○

※評価：目標達成…○ 目標未達成…×

注)電力由来の二酸化炭素の排出係数は、2022年1月に環境省が公表した「電気事業者別排出係数」から東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数『0.443kg-CO<sub>2</sub>/kWh』を使用しました。

# 08 環境活動計画の内容と取組結果の評価及び次年度取組内容

2024年度の取組結果（活動期間：2024年4月1日～2025年3月31日）

環境経営目標		取組	結果	次年度の取組
1 軽油使用量の削減		①エコドライブの実施	○	継続する
		②アイドリングストップの徹底	○	継続する
		③定期点検の徹底	○	継続する
		④配送状況の見直し実施	△	継続する
2 電気使用量の削減		①鶏舎内温度の適正温度	○	継続する
		②G Pセンター内の適正温度	○	継続する
		③不用箇所の消灯徹底	○	継続する
		④太陽光発電の自家消費とメンテナンス	○	継続する
		⑤電力消費量グラフで最大ピークを確認する	○	継続す
3	二酸化炭素排出量の削減	上記 1, 2 の削減活動を以って取り組む	○	継続する
4 産業廃棄物及び一般廃棄物排出量の削減		①鶏糞の堆肥化(全量堆肥化し肥料を販売)	○	継続する
		②包装資材の再資源化	△	継続する
		③OA用用紙使用量の削減	○	継続する
		④分別・リサイクルの実勢	○	継続する
		⑤一般・産廃分別	○	継続する
5 水使用量の削減		①節水アイテムの導入	○	継続する
		②節水教育及び適正使用	○	継続する
6 製品・サービスの環境負荷低減(A-PETパックの使用量を削減)		①A-PETパックの使用量を削減	△	継続する
		②A-PETパック破損数の削減	△	継続する
		③モウルドパックの商品への変更	△	継続する
		④飼料要求率の向上	△	継続する
7	地域の環境美化活動	周辺地域の環境美化活動	○	継続する

結果の記号：○---取組んでおり問題なし △---取組んでいるが一部まだ問題がある ×---未実施  
 ※注記「次年度の目標は5頁に記載の通り」

←



菜の花エッグのモウルドパック商品

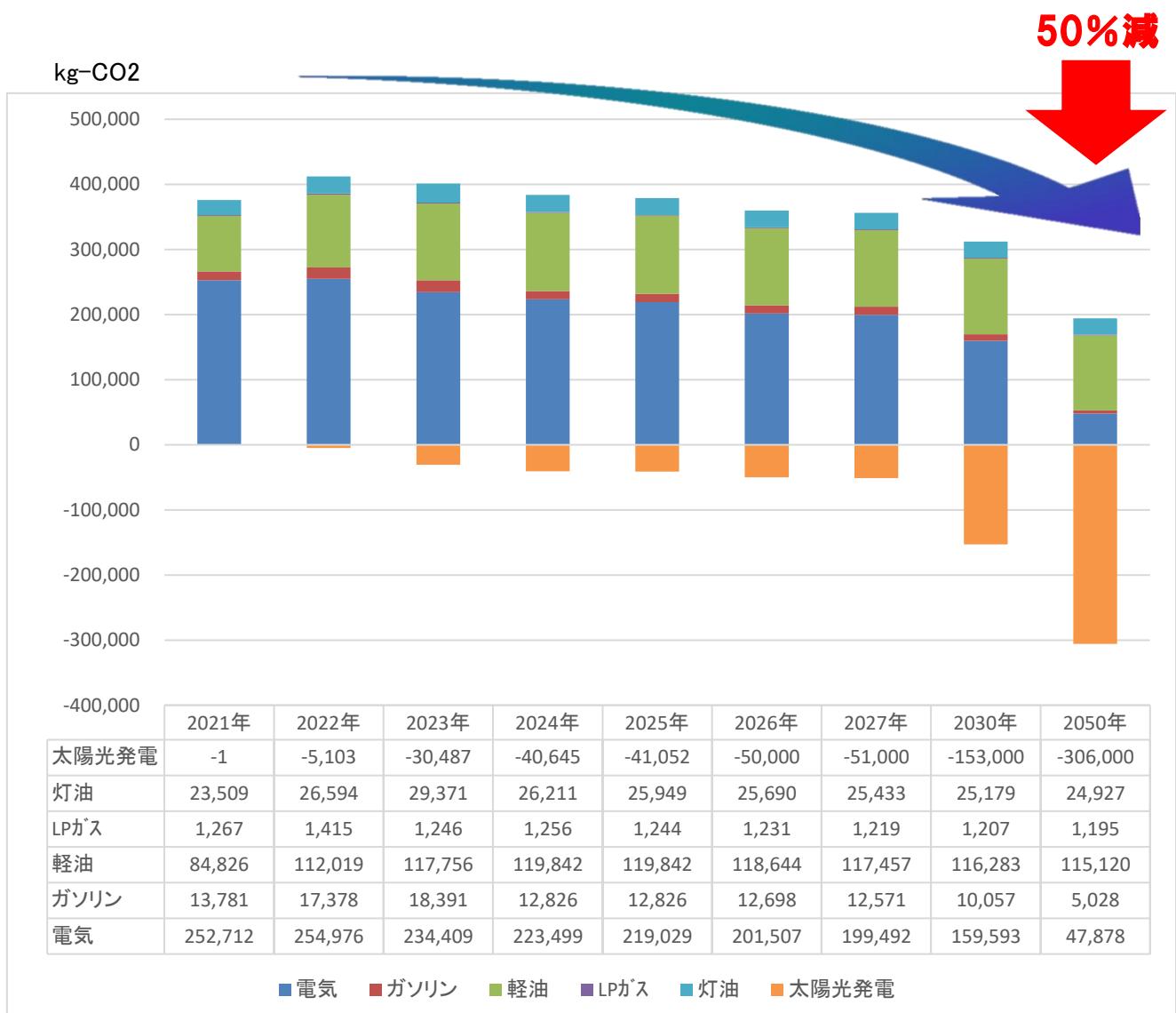
# 09 環境目標

2024年度を基準年とした今後3年間の中長期環境経営目標は次の通りです。  
年度:4月～3月

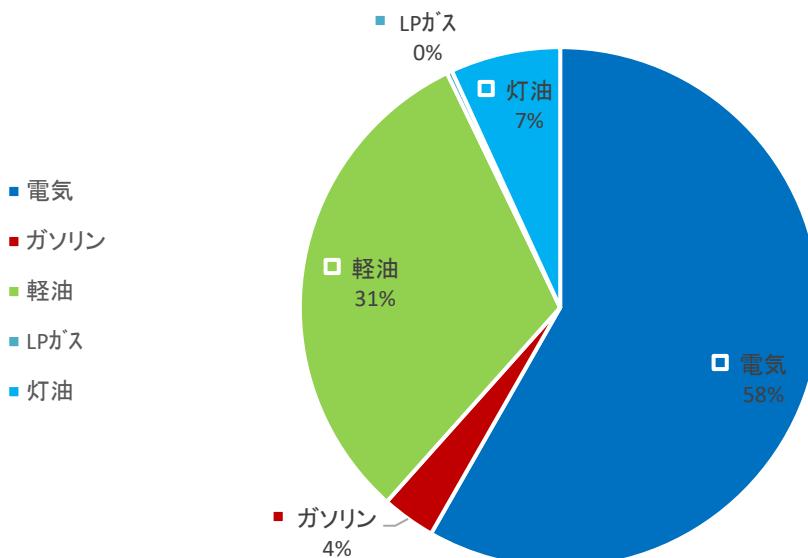
No.	環境経営方針	2024年度実績値 基準値	区分	2024年設定		
				2025年度	2026年度	2027年度
No.1	二酸化炭素排出量の削減	383,636kg-CO2/年	達成手段	目標	379,799kg-CO2/年以下	375,963kg-CO2/年以下
				活動実績	基準値に対して1%削減	基準値に対して2%削減
				①軽油、ガソリン、灯油の使用量の削減	①軽油、ガソリン、灯油の使用量の削減	①軽油、ガソリン、灯油の使用量の削減
				②作業効率の向上	②作業効率の向上	②作業効率の向上
No.2	軽油の使用総量の削減	46,450ℓ/年	達成手段	③不要な照明を消す	③不要な照明を消す	③不要な照明を消す
				④冷暖房の適正温度を維持する	④冷暖房の適正温度を維持する	④冷暖房の適正温度を維持する
				目標	45,986ℓ/年以下	45,521ℓ/年以下
				活動実績	基準値に対して1%削減	基準値に対して2%削減
No.3	電気使用量の削減	504,513kWh/年	達成手段	①エコドライブの実施	①エコドライブの実施	①エコドライブの実施
				②アイドリングストップの徹底	②アイドリングストップの徹底	②アイドリングストップの徹底
				③定期点検の徹底	③定期点検の徹底	③定期点検の徹底
				目標	499,468kWh/年以下	494,423kWh/年以下
No.4	廃棄物排出量の削減	828kg/年	達成手段	活動実績	基準値に対して1%削減	基準値に対して2%削減
				①鶏舎内温度の適温設定	①鶏舎内温度の適温設定	①鶏舎内温度の適温設定
				②GPセンターの適正温度運転	②GPセンターの適正温度運転	②GPセンターの適正温度運転
				③不要箇所の消灯の徹底	③不要箇所の消灯の徹底	③不要箇所の消灯の徹底
No.5	水使用量の削減	1,727m³/年	達成手段	④太陽光発電の増設		
				目標	819kg/年以下	811kg/年以下
				活動実績	基準値に対して1%削減	基準値に対して2%削減
				①鶏糞のたい肥化	①鶏糞のたい肥化	①鶏糞のたい肥化
No.6	鶏卵パック(環境負荷)使用量削減	24.68t/年	達成手段	②包装資材の再資源化	②包装資材の再資源化	②包装資材の再資源化
				③OA用紙使用量の削減	③OA用紙使用量の削減	③OA用紙使用量の削減
				④分別・リサイクルの実施	④分別・リサイクルの実施	④分別・リサイクルの実施
				目標	1,710m³/年以下	1,692m³/年以下
No.7	地域の環境活動	全部門 環境管理 責任者	活動計画	活動実績	基準値に対して1%削減	基準値に対して2%削減
				達成手段	①節水アイテムの導入	①節水アイテムの導入
				目標	24.43t/年以下	24.19t/年以下
No.6	鶏卵パック(環境負荷)使用量削減	24.68t/年	達成手段	活動実績	基準値に対して1%削減	基準値に対して2%削減
				達成手段	①A-PETから紙素材のパックへ移行	①A-PETから紙素材のパックへ移行
				目標	23.94t/年以下	
No.7	地域の環境活動	全部門 環境管理 責任者	活動計画	活動実績	基準値に対して3%削減	
				達成手段	①美化活動(環境美化活動) 12回／年	①美化活動(環境美化活動) 12回／年
No.7	地域の環境活動	全部門 環境管理 責任者	活動計画	目標	美化活動(環境美化活動) 12回／年	美化活動(環境美化活動) 12回／年

- 化学物質(PRTR対象物質含有物)は使用していないので、環境経営目標は設定していない。
- 事務所からの廃棄物排出量は少量のため、環境経営目標値は設定せず削減・分別活動を実施する。
- 環境活動状況、目標値達成度等3ヶ月毎に評価する。

# 10 CO2排出量の推移と2050年度目標



## 2024年度CO2排出量割合



# 11 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2025年5月に遵法状況を確認した結果、環境関連法規等の違反はありません。

また、関係当局より違反、訴訟等の指摘もありません。

順守評価結果	規制の内容 規制基準	法令等の名称		
			確認した記録等	評価
1 廃棄物処理法(昭和45年12月25日法律第137号)廃棄物処理法施行令(昭和46年9月23日政令第300号)廃棄物処理法施行規則(昭和46年9月23日厚生省令第35号)	委託契約書は書面にて行う		書面にて契約	○
	委託契約書の保存期間:契約終了から5年間		委託契約書確認	○
	・マニュフェストの交付 ・収集、運搬、処分終了の確認 A票とB2,D,E票を照合		マニフェスト確認	○
	処分状況の把握と知事への報告 ・マニュフェスト送付後、写しが90日以内に処分委託者から送付がない場合		期限内に送付されている	○
	・マニュフェスト送付後、写しが180日以内に最終処分終了の送付がない場合			○
	マニフェスト保管期間:5年間		ファイルでキャビネットに保管	○
	マニフェスト交付等の状況に関する報告書を千葉県に報告(6月末)		県に報告済み	○
2 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	事業者は、その事業活動に伴つて生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。		回収実績	○
3 自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法 (自動車NOx、PM法)	国又は地方公共団体が実施する、自動車排出窒素酸化物等による大気汚染の防止に関する施策に協力しなければならない。		車検証	○
4 千葉県環境保全条例	自動車の使用車又は運転者は粒子状物質排出基準を超えて粒子状物質を排出するものを運行し、又は運行させてはならない。			○
5 労働安全施行規則	一年以内ごとに一回、定期的に自主検査を行わなければならない。		定期点検検査書	○
6 消防法	事務所、作業場に消火器を設置		消火器設置場所確認	○
7 火災予防条例			少量危険物貯蔵取扱届出書	○
8 特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	特定家庭用機器の長期間使用による到底家庭用機器廃棄物の排出抑制に努める。特定家庭用機器廃棄物を排出する場合、その求めに応じ料金の支払に応じる		家電の廃棄無し	—
9 使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律(小型家電リサイクル法)	小型家電機器の廃却時は、市町村その他収集運搬、再資源化を適切に実施しその引き渡すように努めること		小型家電の廃棄無し	—
10 使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	自動車所有者は、当該自動車が使用済自動車なったときは、引き取り業者に当該使用済自動車を引き渡さなければならない		小自動車の廃棄無し	—
11 フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロ	簡易点検:3ヶ月に1回以上の点検実施		点検表を確認	○
12 君津市環境保全条例	揚水量等測定記録表(様式) 3年間保存			○
13 净化槽法	清掃回数:年1回以上		「保守点検検査表」確認	○
	保守点検:4ヶ月に1回以上		「保守点検検査表」確認	○
	水質検査:毎年1回		「検査結果書」確認	○
14 オフロード法	基準適合表示		表示表の確認	○
15 千葉県環境保全条例	排水の水質検査毎年1回		「検査結果書」確認	○

# 12 代表者による全体の評価と見直し結果

## 見直し関連情報

項目	確認	評価・コメント
1 エコアクション21文書	✓	環境経営方針は、課題とチャンスを経営的視点で反映させた。
2 環境経営目標及び目標達成状況	✓	未達成のものは次年度積極的に取組たい
3 環境経営計画及び取組実施状況	✓	全員参加で活動できました。
4 環境関連法規遵守状況	✓	違反・訴訟及び外部からの苦情・要望はありませんでした。
5 内部・外部コミュニケーション対応記録	✓	内部・外部コミュニケーションを実施した。
6 問題点のは是正・予防処置の実施状況	✓	是正処置を実施した。
7 その他( )	✓	ありません。

## 変更の必要性の判断

見直し項目	変更	「有」の場合の指示事項等
1 環境経営方針	無	変更ありません。
2 環境経営目標・計画	有	市水使用量を適正量に変更を指示
3 環境経営計画・取組事項	有	次年度も活動計画を見直し、取組事項を更に充実させること。
4 実施体制	無	変更ありません。
5 環境経営システム	無	変更ありません。

## 総評

2024年度(2024年4月～2025年3月)における主な環境負荷の実績では、太陽光発電の継続的な導入と電力使用量の「見える化」により、電力使用量の削減目標は達成されました。また、鶏糞の全量堆肥化や工場廃棄物の大幅削減といった取り組みも効果を挙げており、地域循環型の農業経営の推進に寄与しています。

一方で、軽油使用量の増加とそれに伴うCO<sub>2</sub>排出量の増加が顕著であり、配送拠点の変更による影響が大きかったことが確認されました。また、水使用量の増加については、GPセンターのボイラー更新に伴い、洗卵水を地下水から市水へ変更したことが主因であり、今後の改善が必要です。

さらに、A-PETパックの使用量削減については一部進展が見られたものの、完全な目標達成には至っておらず、モウルドパック等の環境配慮型資材への切替加速が求められています。これらの結果を踏まえ、目標未達の項目については、2024年度実績を新たな基準年とし、今後は毎年1%ずつの削減を目指す方針が示されており、実効性ある計画の見直しがなされています。

総じて、成果と課題が明確に整理された1年であり、継続的な改善の意思と体制が確立されていることから、今後の環境負荷低減への取組強化に向けた重要な転換点となる年度と評価できます。

今後も、環境経営方針および環境経営システムを継続的に実行し、社員一人ひとりの意識向上と日常業務における改善活動を積み重ねることで、「地域に最も身近で信頼される卵屋さん」として、環境と調和した持続可能な経営を実現してまいります。

# 13 ちばSDGsパートナー登録制度

ちばSDGsパートナー登録証



## SDGs達成に向けた経営方針等

私たちは、鶏卵生産者として持続可能な社会を実現するためにSDGs推進に取り組む他企業や地域の様々な団体、行政、学校等と連携を進めています。

- 環境に配慮した生産活動を行うために電力の再生エネルギーを推進します。
- 地域の中核的な中小企業を目指し、安定的な鶏卵生産に取り組みます。
- 地域行政、地域消費者との持続的な交流を続け、地産地消や食育活動に取り組みます

登録番号222

3側面	SDGs ゴール	目的・活動内容	活動内容	目標																								
環境	  	<p>環境に配慮した生産活動を行うために電力の再生エネルギー化を推進する。</p> <p>太陽光発電を増設し、発電した電力を自家消費とし、再生エネルギー100%を目指す</p>	 	<p>電力の再生エネルギー率 (2025:12%⇒2029年25%)</p> <table border="1"> <caption>再エネルギー率グラフ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>発電量</th> <th>電力使用量</th> <th>再エネ率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2021年</td> <td>0</td> <td>550,000</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2022年</td> <td>0</td> <td>550,000</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2023年</td> <td>0</td> <td>550,000</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2024年</td> <td>100,000</td> <td>550,000</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>2030年</td> <td>250,000</td> <td>550,000</td> <td>45%</td> </tr> </tbody> </table>	年	発電量	電力使用量	再エネ率	2021年	0	550,000	0%	2022年	0	550,000	0%	2023年	0	550,000	0%	2024年	100,000	550,000	18%	2030年	250,000	550,000	45%
年	発電量	電力使用量	再エネ率																									
2021年	0	550,000	0%																									
2022年	0	550,000	0%																									
2023年	0	550,000	0%																									
2024年	100,000	550,000	18%																									
2030年	250,000	550,000	45%																									
社会	  	<p>地域・消費者との持続的な交流を続けること。</p> <p>生産現場の公開・産直勉強会を実施し地産地消と食育活動を行う。</p>	 	<p>食育活動の実施 (2024:5回⇒2029年12回)</p> <p>2024/10/24 パルシステム東京 同乗体験 2025/5/15 パルシステム千葉 産直連続講座 2024/9/26 東京同友会江東支部 移動例会 2024/6/28 千葉大学キャリアアップ講座 2024/10/26 かずさファームフェスタ参加</p>																								
経済	 	<p>安定的に鶏卵生産を続けること。</p> <p>常に最新養鶏栄養学を利用し飼料効率を上げる。飼料用米・未利用資源の利用を増やす。</p>	 	<p>飼料米・未利用資源の飼料化 (2025:20%⇒2029年30%)</p> <p>飼料米・乾燥卵殻の飼料添加 飼料要求率:2.25→2.18</p> <table border="1"> <caption>原材料名等</caption> <thead> <tr> <th>原材料の区分</th> <th>配合割合</th> <th>原材料名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>穀類</td> <td>41%</td> <td>米、マイコ、どうもろこし、デンブン</td> </tr> <tr> <td>そとうこう類</td> <td>19%</td> <td>コーングレインフィード、米ぬか</td> </tr> <tr> <td>植物性油かす類</td> <td>18%</td> <td>なたね油かす、大豆油かす</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>16%</td> <td>乾燥卵殻、動物性油脂、炭酸カルシウム、食塩、高級飽和脂肪酸、バフリカ油抽出物、無水ケイ酸、酵素処理レンチン、ハラコカク菌体末、大豆抽出物、硬化油、レンチン</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1.原材料名は、原則として配合割合の高い順である。</p>	原材料の区分	配合割合	原材料名	穀類	41%	米、マイコ、どうもろこし、デンブン	そとうこう類	19%	コーングレインフィード、米ぬか	植物性油かす類	18%	なたね油かす、大豆油かす	その他	16%	乾燥卵殻、動物性油脂、炭酸カルシウム、食塩、高級飽和脂肪酸、バフリカ油抽出物、無水ケイ酸、酵素処理レンチン、ハラコカク菌体末、大豆抽出物、硬化油、レンチン									
原材料の区分	配合割合	原材料名																										
穀類	41%	米、マイコ、どうもろこし、デンブン																										
そとうこう類	19%	コーングレインフィード、米ぬか																										
植物性油かす類	18%	なたね油かす、大豆油かす																										
その他	16%	乾燥卵殻、動物性油脂、炭酸カルシウム、食塩、高級飽和脂肪酸、バフリカ油抽出物、無水ケイ酸、酵素処理レンチン、ハラコカク菌体末、大豆抽出物、硬化油、レンチン																										

※SDGsは、世界全体の経済、社会及び環境の三側面を、不可分のものとして調和させ、誰一人取り残すことなく、持続可能な世界を実現するための統合的取組であり、SDGsを推進していくための、千葉県内企業等におけるSDGs推進の機運を醸成するとともに、具体的な取組を後押しするため、「ちばSDGsパートナー登録制度」です。菜の花エッグも登録をして活動しています。

# 14 菜の花エッグのCSR活動

項目	シンボルマーク 認証年 認証名	活動宣言 目標	活動状況
BCP	 令和4年度 連携事業継続力 強化計画	<p>自然災害(地震・台風)等のリスクや感染症(高病原性鳥インフルエンザ(AI)・新型コロナウィルス感染症)等のリスクが年々高まっていることを鑑み、連携事業者が協力し合って被災時においてもその影響を最小化し取引先・消費者に鶏卵の安定供給を図っていくことを目的に連携事業継続力強化計画の策定に取り組む。</p>	 
CO2排出量削減	 令和3年度 CO2CO2 スマート宣言 事業所	<p>包装資材はリサイクルペット、モールドを使用し、飼料原料には地元飼料米の利用に取り組み、鶏舎・工場では照明のLED化、社内全員で節電に努めています。</p>	 
再エネ100	 令和6年度 再エネ100宣言	<p>私たちは、鶏卵生産者として、地球環境問題に多方面からアプローチし、持続可能な社会実現のため積極的に全社で環境経営システムの継続的改善に取り組みます。</p> <p>再エネ100%達成目標年2050年</p>	 